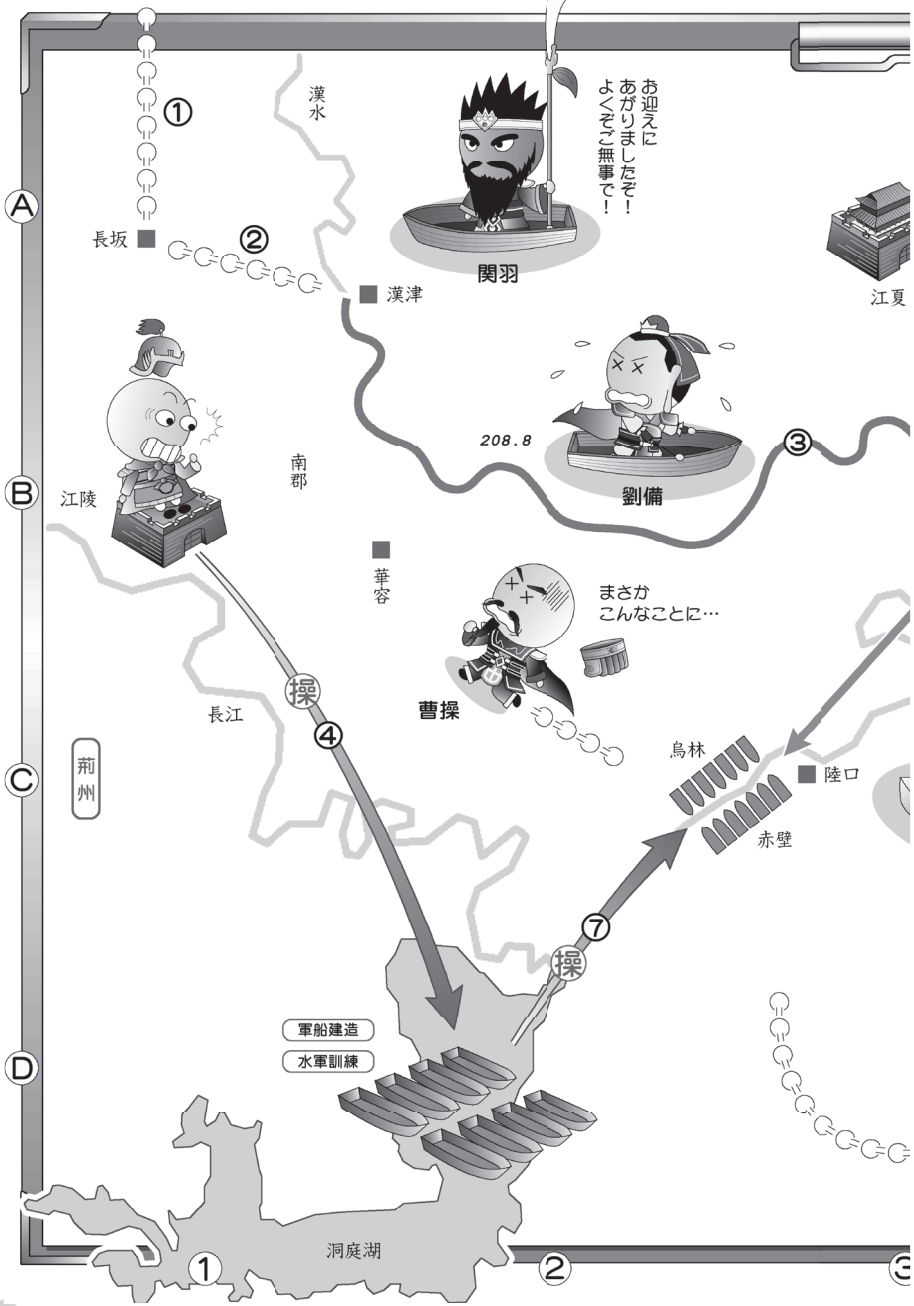
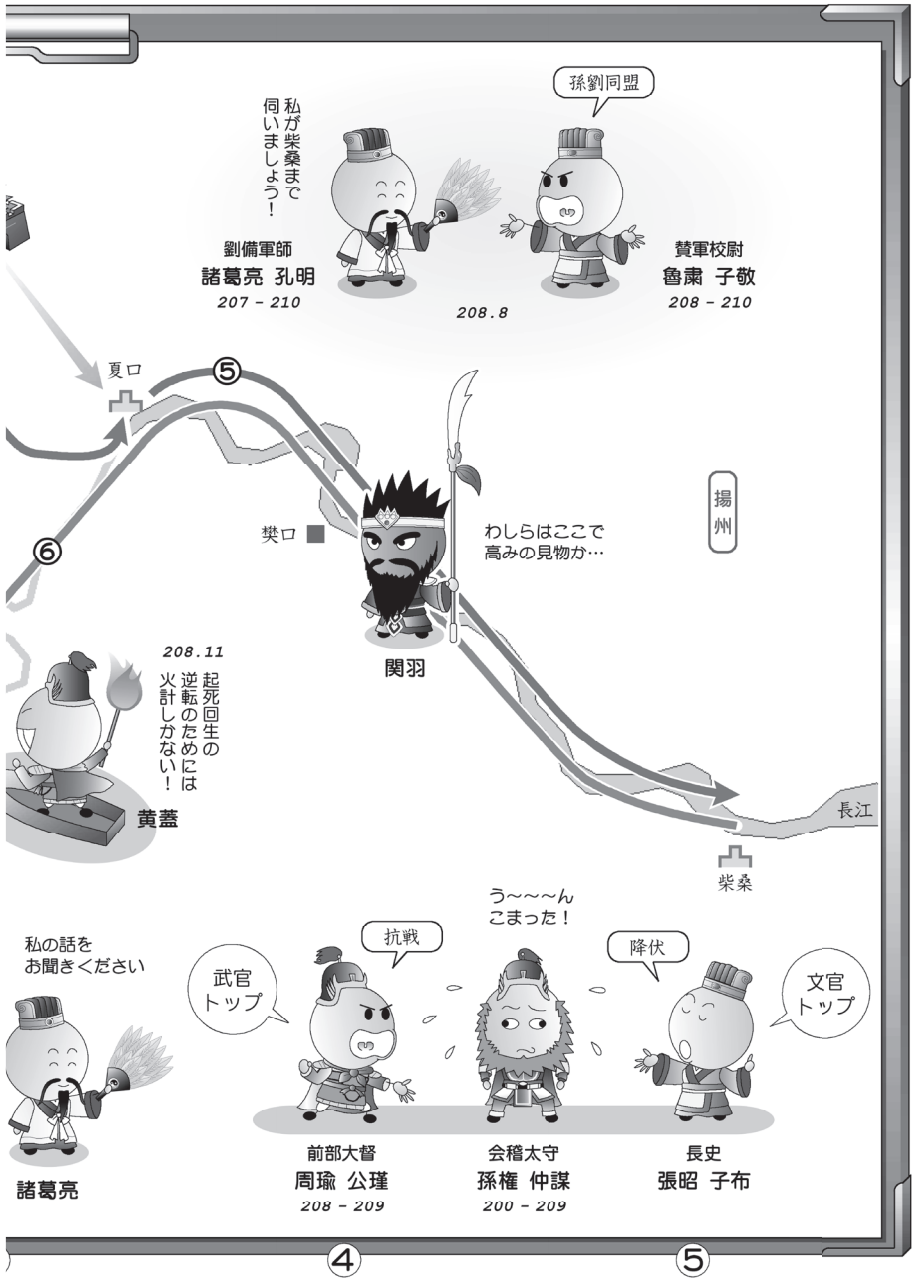
〈赤壁の戦〉


①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
A
B
C
D
漢水
長坂
漢津
江夏
関羽
お迎えに
あがりましたぞ！
よくぞご無事で！
208.8
劉備
江陵
南郡
華容
まさか
こんなことに…
曹操
操
長江
荊州
烏林
陸口
赤壁
軍船建造
水軍訓練
洞庭湖

208年


孫劉同盟
私が柴桑まで
伺いましょう！
劉備軍師
諸葛亮 孔明
207 - 210
208.8
賛軍校尉
魯粛 子敬
208 - 210
夏口
樊口
揚州
わしらはここで
高みの見物か…
関羽
長江
柴桑
208.11
起死回生の
逆転のためには
火計しかない！
黄蓋
う～～～ん
こまった！
抗戦
降伏
私の話を
お聞きください
武官
トップ
文官
トップ
諸葛亮
前部大督
周瑜 公瑾
208 - 209
会稽太守
孫権 仲謀
200 - 209
長史
張昭 子布

劉備が曹操軍から必死の逃走劇を演じていた（A-1）ころ、孫権（D-4/5）は本拠地の呉ではなく柴桑（C-5）にいました。

じつはこの年（208年）の春(＊01)、孫権は父（孫堅）の仇で江夏（A-3）太守の黄祖を討つべく兵を起こし、孫権御自らここまで出陣していたためです。

先代の孫策以来、幾度となく黄祖討伐の兵を起こしながらその目的を達せられないままにきた孫権でしたが、今度ばかりは、あらかじめ黄祖の首を入れる箱まで用意して、必勝を期した陣を布きます。

それが奏功したか、今回は過去にない連戦連勝で、あれだけ苦労した黄祖の首級をあっけなく取ることに成功。(＊02)

父孫堅を殺されたときまだ10歳だった孫権は、17年の時を経てようやく仇を討ったものの、一息つく間もなく時代は急変します。

すぐに黄祖の後任太守として劉琦が赴任してきたかと思ったら、間髪を容れず、荊州牧劉表の訃報が入ってきたためです。

孫権第一の臣下として、武将では周瑜（D-4）、文官では張昭［子布］＊（D-5）がいましたが、当時、彼らに勝るとも劣らぬほど孫権が信頼してやまない人物に魯粛［子敬］＊＊（A-5）なる人物がいました。

＊ 若いころから学問に励み、何度も中央に推挙されるが応じなかった。しかし、孫策が挙兵したとき参謀として招聘されるとこれに応じる。孫策の信頼は厚く、その死にあたって、孫権に「内政のことは張昭に相談せよ」と遺言したほど。

＊＊ 豪族の家に生まれたが、困った人には惜しみなく財を分け与えるくせがあり、周瑜が資金援助を申し出たとき、２つあった倉のうち丸々ひとつの倉を惜しげもなく周瑜に差し出したため、以来、２人は懇意の仲となる。

魯粛はつねづね「荊州（C-1）を制する者が天下を制す」と考えており、こたびの劉表の死によって荊州が劉備のものとなるのならこれを手懐け、もし混乱するようならこれを我が物にしたいと思い、これを上奏します。

そこで、まずは動静を探るため、孫権は「弔問」という名目で魯粛を荊州に送り込むことにしました。

ところが、魯粛が夏口（B-3/4）まできたところで事態は予想以上に深刻であることを知ります。

――すでに曹操が大軍を動員して荊州へと進軍しつつある、じゃと！？

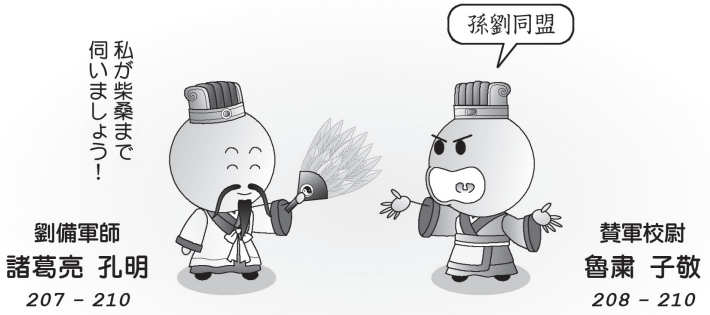
荊州を曹操に取られたのでは、孫呉の命運は尽きます。

魯粛は急ぎ夏口から西へ向かいましたが、南郡（B-1/2）に入ってすぐ、今度は「すでに劉琮が曹操に降り、劉備は南へと敗走中！」との報を耳にします。

事態は刻一刻と悪化しており、魯粛は焦りを覚えます。

彼は「とにかく劉備と会わねば！」と南郡を北上し、長坂（A-1）にてついに劉備と会見することができました。(＊03)

その会見で魯粛は、孫権の名代として「孫劉同盟」を申し出る(＊04)（A-4/5）と、劉備はたいそう喜び、今度は劉備の名代として諸葛亮（A-4）を孫権の許へ派遣することにします。（矢印⑤）



（＊01）旧暦の「春」は１月～３月を指します。

（＊02）『演義』では、黄祖と因縁浅からぬ甘寧によって討ち取られたことになっていますが、『正史』では名もなき鼠輩（馮則）に斬られています。

（＊03）『演義』では、劉備が夏口まで辿りついたところで魯粛と会見したことになっています。

（＊04）『正史』周瑜伝ではこうなっていますが、諸葛亮伝では諸葛亮の発案となっています。